

色と空のあいだ

中島 千絵

この春の退職にあたり、研究室の片付けをしています。次々に出てくるさまざまな資料に、作業の手は止まりがちです。アナログがデザイン教育の軸であった頃、デジタルデザインの黎明期、そして、AIとの共存を目の当たりにしている今日。焦る気持ちを手放して資料に心を寄せながら、整理を味わうことにしてみると、時々自分のもとへ行き来する小さなタイムトリップが始まります。資料を形作るコンテンツ、デザイン、紙、インク、そしてそれらが纏っている何か...、資料それぞれによって、記憶の彩度やトーンが微妙に異なります。取り組みの深さやこだわりによっては、肌感覚や嗅覚のようなものまで呼び起こされます。アナログ時代の資料からは、胸からお腹にかけてじんわりと温くなる感覚、デジタルに関する資料からは、脳のどこかが刺激されるような感覚があります。

先日、おなじみの仏教語「色即是空・空即是色」の意味をあらためてAIに尋ねてみました。返ってきたのは、「世界のあらゆるものは固定した実体ではなく、関係の中で現れている存在である」という説明でした。紙や、インクや、デザインに、触れるとき、「色」は「空」であり、「空」はまた「色」として現れます。



個展の作品と中島先生

AIが思考をはるかに超える勢いで人間の世界に介入している現在ですが、私は意識的に機器から離れ、意識的に世界の実体感を増やし、そして意識的に言葉化を試みます。それが何になるというわけではありません。資料整理の「色」や「空」をめぐる小さな旅によって、私は自身を味わいます。

中島 千絵（玉川大学芸術学部 教授）

今回のトピック デザイン教育と色彩

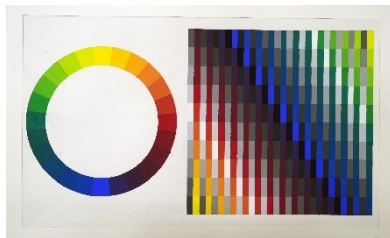
第14号は、「デザイン教育と色彩」というテーマでお届けします。今回は、長年にわたりデザインを学ぶ学生に色彩や配色について指導してこられた森香織さんをお願いしました。森さんには色いろサロン第14回にもご登壇いただき、トピックについてお話しいただく予定です。

「デザイン基礎としての色彩演習」

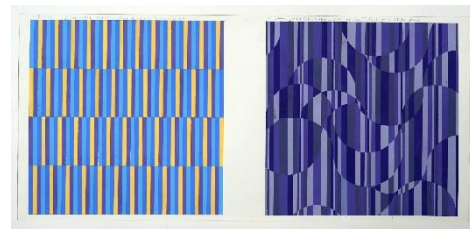
森 香織

これまで38年間にわたってずっと色彩基礎の演習授業を受け持って来ました。最初に奉職した女子短大ではオストワルトシステムのみで演習をしていましたが、日芸に異動してからはオストワルトシステムと色研のP.C.C.S.を併用して混色の基本から機能性を意図した配色までを4つの課題で網羅しています。この授業は1年次の前期の必修科目で、入学してくる学生の実技能力はまちまちですが、基本混色作業から丁寧に動画を駆使して教えて来ました。デジタルでしか絵を描いたことがない人も多い中で、絵の具を溶いて8段階のグレースケールを作ったり、24色相環を作る作業は意外と喜んで取り組んでいます。

オストワルトでは混色を主体にして彩度と明度の関係性を理解させ、P.C.C.S.ではトーンの違いと配色計画に特化した課題にしていますが、1年次の終わりに配色に関してもっとたくさん学びたいという声をよく耳にします。感覚的に「好きな色」を選んでいった段階から「目的を満たす配色」の奥深さを理解し始め、自分なりに応用してみたいのだと思います。デザイン造形は応目的表現なので早い段階で色彩のセオリーに沿った配色ができるようになることはどの分野のデザインの基礎学習にとってもたいへん有意義なことと考えています。



24色相環とグレースケール



アクセントカラーとドミナントカラーの構成



36等色相三角形と構成



アクセントカラーとドミナントカラーの構成



プロフィール
森 香織(モリ カオリ)

日本大学芸術学部教授。筑波大学大学院芸術研究科デザイン専攻構成修了。東京純心女子短期大学美術科、東京純心女子大学芸術文化学科を経て現職。専門はデザイン教育・構成・視覚伝達デザイン。文房具おたくでメモ魔。ワインと日本酒をこよなく愛す。

会員リレーコラム

はじめました「さとやまアートプロジェクト」

里山を舞台に様々な感覚特性を持つ人々が集い、「表現」と「鑑賞」の活動をおこないます。参加者は里山の特徴を活かした造形活動をおこない、ときどき鑑賞会を開きます。表現も鑑賞も、自らの身体的・感覚的特性を生かしたやり方で進め、特に鑑賞では感覚特性の異なる人々の様々な感想が、一人では感受できない新たな感覚をグループで獲得することを期待しています。活動の第一ステップはフィールドの整備で、目標は車いすや白杖で移動できるアクセス道をつくることです。

当初は視覚特性の相違による感覚多様性からの着想でしたが、企画準備の段階で視覚に限定しない多様性も視野に入れた活動としました。



入口広場予定地の様子

左：2025年8月 整地前 中央：2025年8月 整地後 右：2026年2月

地面の様子が分からないので丹念に手鎌を使って整備を進めています。
冬場は深い雪に覆われ、作業中断です。

日本色彩研究所 公式Instagramに報告掲載中
https://www.instagram.com/jcri_colorinfo/

赤木 重文（アカギ シゲフミ）
一般財団法人日本色彩研究所 会長

第13回色いろサロンを開催しました

2026年1月30日（金）に、第13回となる『色いろサロン』を開催しました。「こどもと造形教育」をテーマとし、こまちだたまおさんにお話しいただきました。

<参加者からのご感想>（一部抜粋）

『色や造形というものの関わりはただ楽しいということだけでなく、試行錯誤の経験や新しい気づきなど様々なものとの出会いとなるのだとあたためて感じ、これを子どもと同じ目線で精一杯楽しめるような大人になりたいと感じました。』

『障害のある方への画材について、60色の絵の具を用いて「色を選ぶ喜びを伝えている」というお話が大変印象的でした。色というと、発色の様や混色、その変化などについて注目しがちになってしまいますが、まず「色を選ぶ」という動作から色彩の活動は始まっていると気づきを得ることができました。』

『お話の中で、暗い色ばかり使う子どもが実はお母さんが来ている服だからグレーを使うというエピソードが印象的でほっこりしました。色を選ぶのにもそれぞれの理由があることを実感し、表現って深いなと思いました。』

第14回は3月27日（金）20時より開催予定です。たくさんのご参加、お待ちしております。

オンラインセッション 第14回『色いろサロン』のご案内

Color Circleで取り上げたトピックに関連するオンラインセッション『色いろサロン』の第14回を開催いたします。今回はテーマを『デザイン教育と色彩』として、執筆者の方に話題提供をしていただきます。

『色いろサロン』では、登壇者の方へのご質問はもちろん、参加者同士で意見交換を行い、会員同士の交流ができる場にしていきたいと考えています。

視聴のみのご参加も大歓迎です。会員の皆様、並びに本研究会にご関心のある方々、奮ってご参加ください。

●日時：2026年3月27日（金）20：00～21：00

●方法：ZOOMによるリアルタイム配信

●オンライントークの会の流れ

・Color Circle vol.14のトピック執筆者によるお話

森香織さん

名取初穂さん（司会）

・トピックに関する質疑応答

・参加者全体、またはグループに分かれての意見交換

●参加費：

本研究会会員の方・・・無料

一般の方・・・1,000円

非会員のうち、学生で会員の紹介がある場合は無料

参加申込と同時にご入会いただいた場合は無料

●参加費のお振込先：

「郵便振替」「銀行振込」のいずれかよりお願いいたします。

郵便振替：00150-6-136277 色彩教育研究会

銀行振込：ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキョウ）店 当座 136277 色彩教育研究会

●お申し込み方法：以下のGoogle フォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/oY4NvKBjLVPQZdyCA>

参加申込・参加費納入期限：2026年3月25日（水）

⇒3月26日（木）にZOOMのURLをお送りいたします。

※sikisaikyoiku@gmail.comからのメールが迷惑メールに分類されないよう、
設定をお願いいたします。

※3月26日中にメールが届かない場合は、恐れ入りますが、事務局まで
ご連絡をお願いいたします。

★こんなことを聞きたい、質問したい！等のご要望は、ぜひお申込フォームに
記載をお願いいたします！

お問い合わせ先：日本色彩教育研究会事務局（sikisaikyoiku@gmail.com）



日本色彩教育研究会HP <http://shikikyo.jp/index.html>

発行人：茂木一司

製作：Color Circle編集委員会

（名取初穂、島田由紀子、手塚千尋、中島千絵、宮野周、大内啓子、佐々木三公子）

